

県立大薬学部生の



研究報告

▶▶ 4

皆さんが薬局やドラッグストアから手に入れる錠剤や顆粒剤には、薬物の効果を最大限に発揮するように、薬剤の表面を「コーティング」という措置が施され



山田尚樹さん

ています。長時間にわたって薬物が徐々に溶け出すようにしたり、胃では溶けずに腸で溶けるようにしたりします。しかしながら、これら機能性をもったコーティング膜も、製造方法の違いによって、薬の効き目に影響を及ぼすことが少しずつ分かってきました。私たちは医薬品の製

錠剤のコーティング法

造において汎用される二剤を製造する装置や製法 担保することができなく つの異なるコーティングのの違いによって、薬の効 なる可能性が示されまし

このように、どのコーティング方法を用いても同じような薬ができるというわけではなく、病気の治療において最大限に薬の効果が発揮できる最適な薬剤の製造方法を取捨選択する必要があります。さら

ました。それぞれの製法です。さらに検討を進めた結果、この違いはコーティング過程での膜の乾きや

とが分かりました。さらに研究を進め、患者さんに最適で最大の効果を発揮できる薬剤を作るための技術を開発していきたく考えています。

薬効は製造法で決まる

だし、その原因を明らかと「転動流動コーティング法」という異なる方法「転動コーティング法」

（日本薬学会第133年会優秀発表賞 大学院修士課程二年・山田尚樹）

同じ食材を使って料理を行い、薬物の放出速度を比べてみました。その結果、転動コーティングなく、乾燥に時間がかか

見た目や味が変わってき法で作った顆粒剤では速るため、完全な膜を形成

山田尚樹君(卒業生)の仕事が

中日新聞(平成25年10月17日)に

掲載されました